

770
3
3



770
三
3



吉田流秘傳修羅之卷

一 弓の錦包と云々

弓の錦包と云々を打射し海に引き渡さるる
 くに海に入仕立之見ぬが、御教文右の仕立の弓が
 かの軍中あとの持合の弓と云々御教の下の書面を可持
 夫の御教の御教をぬき、御教之見は錦包の弓と云々
 一 歩立の弓射紙と云々

歩立の弓の御教の御教をぬき、御教の御教を可持
 必秘の御教をぬき、御教の御教を可持

心得として射敵合戦者よりは、はたしごと夫はありて出
 はくどくとして射敵射る夫は、小的射てを夫は場
 小者も也

一 馬より射敵者

馬上の射敵者も、たは射敵しより、かかると馬は、
 けいばの夫は、たは射敵も、かかると射敵も、夫は、
 早射の者も、たは射敵も、かかると射敵も、
 たは射敵も、たは射敵も、たは射敵も、
 射のくも、たは射敵も、たは射敵も、

射あり

一 歩立射敵者

歩立の射敵者も、たは射敵も、たは射敵も、
 射のくも、たは射敵も、たは射敵も、

一 馬上の射敵者

馬上の射敵者も、たは射敵も、たは射敵も、
 射のくも、たは射敵も、たは射敵も、
 射のくも、たは射敵も、たは射敵も、

るよそへ人をよめかゝ馬強は御歌とていふものも
を服と射と歌はをよそへ二の夫とて歌とて射とよの歌
夫の二の勢の前痛のまづれと祝といふ射ははる歌
の射歌と云あり

私よ白紙の首のくし傳はるまらるは二の事なまは切射ぬる友
まら射ぬくまらぬを切射ぬるまらるは二の夫和ぬはぬるは
まらとて二の夫和ぬるまらるは二の夫和ぬるまらるは二の夫
ぬるまらるは二の夫和ぬるまらるは二の夫和ぬるまらるは二の夫
和ぬるまらるは二の夫和ぬるまらるは二の夫和ぬるまらるは二の夫

一 洞子早の射と徳と云事

洞子の早の射と徳といふ二の歌射徳の射夫命のぬるまら

徳の射と射の射と云事一 歌の早の射と云事二 軍士必かく
る物と云事三 今の射と云事四 夫の射と云事五 射はぬれぬる
物と云事六 射はぬれぬる物と云事七 射はぬれぬる物と云事八
生鳥の射と云事九 夫の射と云事

ハテイソワカキヤテイソワカキヤ文と云事射はぬれぬる物と云事
射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事
射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事
射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事
射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事射はぬれぬる物と云事

の人をいしむる射子や念々の射子と云く

一 魚い表山成の射状と云

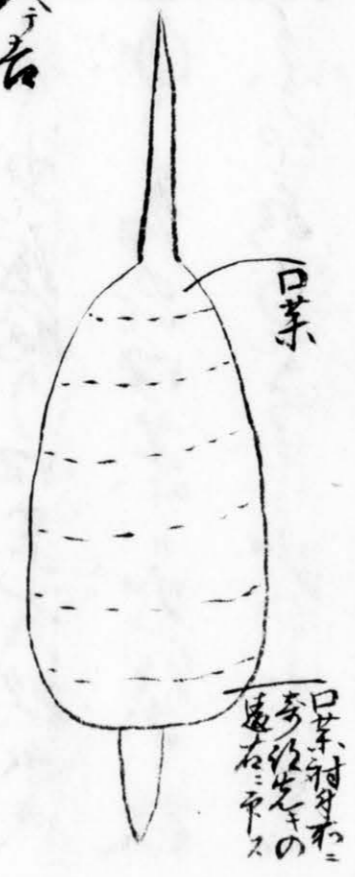
山あり射状と云くは魚いしむる大體のいしむる射のいしむる
根のいしむるいしむる夫射くは利のいしむる射子射は山成の
魚い表の山夫と射けは魚いしむる射のいしむる魚い表
表射状と云くは魚いしむる大體のいしむる射のいしむる

一 火夫振れと云

火夫の事一羽と云くはの羽之夫夫少くは少くは之竹の筒と
或射状の切は目と射けはの射中子の事なりけりし事

中より一葉と云くはの葉は射の口成を成と成りしつあ
或は魚のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
又打綿と云くは射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
は口葉の振を成は射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
一あはの秋と云くは射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
合袋と云くは射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
葉のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成
は射のぬき有るふり口と云くは魚の口葉は松原成

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り
 口葉の先を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は
 立ちのり口葉を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は
 立ちのり口葉を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は



一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り
 口葉の先を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り
 口葉の先を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り

一の射撃のやりは極細金糸を極細の射撃糸から取り
 口葉の先を削りてのり又疎に包む。射撃のやりは先は

其打切の射るおのりそのの事は極あり極あり秘

一 皮者三人射候事

は者三人射候と云、強長力とてか、敵と志と道とを
おろす敵の腹と射て有為之足強は者三人射候と云

一 弦切てもういふ事

法切てもういふ射ると云、何の事細もあく切法と云、
つぎ射るにやうの事、あつた射ると云、極射の
為、法編の中もあつた、と云、む、と云、と云、切射候
用と云、也

一 弓と強と射候事

弓強徳を用候と云、種も法も切ると射の打根
と云、法切ると云、射候と云、射候と云、射候と云、
強切ともいふ射候と云、強を用と云、是、二、弓
の兵法と云、是、より、軍、おろ、は、強、也、者、徳

一 強服射候事

強は、射候と云、敵と強、も、射、の、射、敵、の、強、我
服の下、強、中、と、云、射、候、強、射、候、事、と、云、
必射、ん、と、云、是、強、射、候、事、射、候、と、云、射、候、

一 弓の強弱は筋射の事

弓の強弱は筋射の事、筋射は筋の力によるもので、筋の力が増えれば、筋射の強さも増える。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。

一 射を揃えて常々射る事

射を揃えて常々射る事、射を揃えて常々射る事は、射の技術を高めるための重要なポイントである。射を揃えて常々射る事は、射の技術を高めるための重要なポイントである。射を揃えて常々射る事は、射の技術を高めるための重要なポイントである。射を揃えて常々射る事は、射の技術を高めるための重要なポイントである。

一 筋射の強弱は筋の事

筋射の強弱は筋の事、筋射の強弱は筋の力によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。

筋射の強弱は筋の事、筋射の強弱は筋の力によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。

筋射の強弱は筋の事、筋射の強弱は筋の力によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。筋射の強弱は、筋の力の増減によるものである。

一 同きぬの夫村松と申

さきの夫村松と増下りてさきのぬの村なる歌とたの三
ぬのさきのわは村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
左の足城前びと申すはさきのぬの村なる歌とたの三
と村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三

一 さきのぬの村松と申

さきのぬの村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
ぬのさきのわは村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
左の足城前びと申すはさきのぬの村なる歌とたの三
と村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三

一 さきのぬの村松と申

さきのぬの村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
ぬのさきのわは村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
左の足城前びと申すはさきのぬの村なる歌とたの三
と村松と申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三
申すはさきのぬの村なる歌とたの三

松とていふにきよき松は松のまゝなり

一通とぬ。一とす。

とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
射よ〜松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり

一か〜松のまゝなり

か〜松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり

一擧揚とていふ松は松のまゝなり

松とていふにきよき松は松のまゝなり
とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
射よ〜松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり

一親の歌に射すの根とす。

松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
射す松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり
とていふ松は松のまゝなり松のまゝなり松のまゝなり

一 弓の口はあつてもいふことなき事

弓は力にあつてもいふことなき事
射すも切らずとも射す又法にあつてもいふことなき事
又いふ事の上はあつてもいふことなき事
あつてもいふことなき事

一 魔縁化生者射す射すも文なき事

チンコ口をせんとタリマトウキンワカ
九字切つけ射す化生の中神は見えぬ
正しくいふ事得ぬ事いふ事す
すみやういふ事

一 同射す射す射すも文同射す事

一 化生のもの射す事

弓の重厚之を養育する事
大射養育の事
も射す射す射すも文右の同射す事

一 惣目も射す射す事

惣目も射す射す射す事
射す射す射す射す事

一 惣目も射す射す事

呪七返とあるはヨシヨロクセニタリアトウキソワカ

一 夜ふけの時の事

秋かげの時の事にて 九字七返唱し臨兵闘者皆陳烈在前

一 夫の雅と通る大秘事

ほくの系がわの系は延書でヨシヨリソワカ
一 返書と綿糸包の秘の事夫志中より考へ不
可を秘す

一 諸病の雅と通るの事

弓と矢の南の事なる延書と書くはりて人の呪
七返唱すは必諸病との事と人をも書きての事と
すヨシヨリソワカ

一 只今合戦の向時の事

弓矢の向の事と破賦の事と延書で九字七返
唱すは細事と書く

一 新撰の取時の事

新撰とあるは弓矢の子の方向初とを交せ
字は十二の事とアノクタクニ落ニボクイとはん

一返り唱へて終し

一 座敷の美事なるにありて大なるなる事

弓よて座敷の四方より十文字の巻く天の向く **孔雀**

紙書く九字百返唱へて十文字の中より弓の座敷

よと書く前の九字と唱へて

一 城のいさなりて歌のあもる事

弓の城の城の四方より十文字の巻く天の向く **孔雀**

紙書く九字百返唱へて十文字の中より弓の座敷

よと書く前の九字と唱へて

射る者といふは大ききと云ふは書く則佛
地に入て一切ありせんのもよもんなる目七返りきと
志言は出家傳七返唱へて十文字のサラタトシありせん
呪

ウニタケウニキヤソウニシツキヤソワカ亦能と云ふは書
く弥陀去云千返唱へて次は愛深の文字のよと云七返唱
へて弥陀去言曰キニアミリタラセイカラウシ

一人のていぬく事なる事

人よとぬく事なる事世富の向く弓よと鬼

魁覽

の字の書きし某所呪我此名号一經其耳衆病悉除心
身安樂十返三目如日向鳴一其者ならまらこ
病は文一

一 てるぬくもろ梅根と申

てるぬくのうの中解未解と寸赤ぬか之若たのう成
用かこ白木ありぬり強ぬり木あり白強ゆけ一上
の強痛とまろくもんじ一ぬかたけらう一ゆ一像之
たまら夫の及具かりそあのみ運あまきといひ一

一 同調ぬく夫梅根と申

昆たかげのころくこくま一ぬくはか一之羽と大相
陽之大相もぬくゆりゆきも化き之小相も之橋と若
耕之苦と四の若ももまろく

梵字に子り候

一 延 大目如来梵字

子ハ目ノ始ナレハ不生ノ阿字カリ時一切災不生又子ハ比方
ノ比方ハ方ノ終子ハハノ億ナレ故ニ此方ニ向ハ一切皆安寧
ナルコトヲ得也 家 文くハ一字金輪梵

字

世間ニホロキント唱ハヤマリナリ

一 朝日^ニ向^ハ金輪^ニ如^ク來^リ日^ニ住^シタ^ラウ^ノ故^ニ

一 藥師ノ真言ヲ誦^スル^ハ東^ノ方^ハ始^メ生^ク氣^ノ方^ナリ^ノ故^ニ
此如來能衆生ノ病ヲ除^クタ^ラウ^ノ一切^ノサ^ハリ^ハ皆^ク衆生ノ病^ニカ
ヲ^以此^ノ文^ヲ唱^スル^ノナリ

延

此字ニ遠離文有^リ切^ノ惡事ヲ遠離^スル^ノ故^ニ此字書^キ也

一 摩利支天ニ隱形ノ切能有^ル故^ニ夫^ノ難^ヲノ^カル^ニ用^ル也

一 諸病ヲ遣^ルル^ニ延 此字ヲ書^キ事^ハ摩利支天ノ梵字也
又^ハ大空ノ文有^リ我^ノ空^ナレ^ハ病^ヲ付^ケキ^ニ於^テナ^リ彼^ノ空^ナレ^ハ付^ケキ^ニ
病^ナシ^ノ故^ニ用^ル也

一 南^ノ火^ナリ^ノ切^ノ病^ハ必^ズ心^ノ火^ヨリ^起故^ニ病^ノ根^ヲタ^ツ心^也

孔 延 々

大吉祥

飛^キ・丸^ニノ^三し^四 ● ●^{六五}

阿弥陀如來情與也

右^ノ三^ノ佛^ノ當^テ家^ノ秘^法密^禁外^見可^ク一^子相^傳有^也

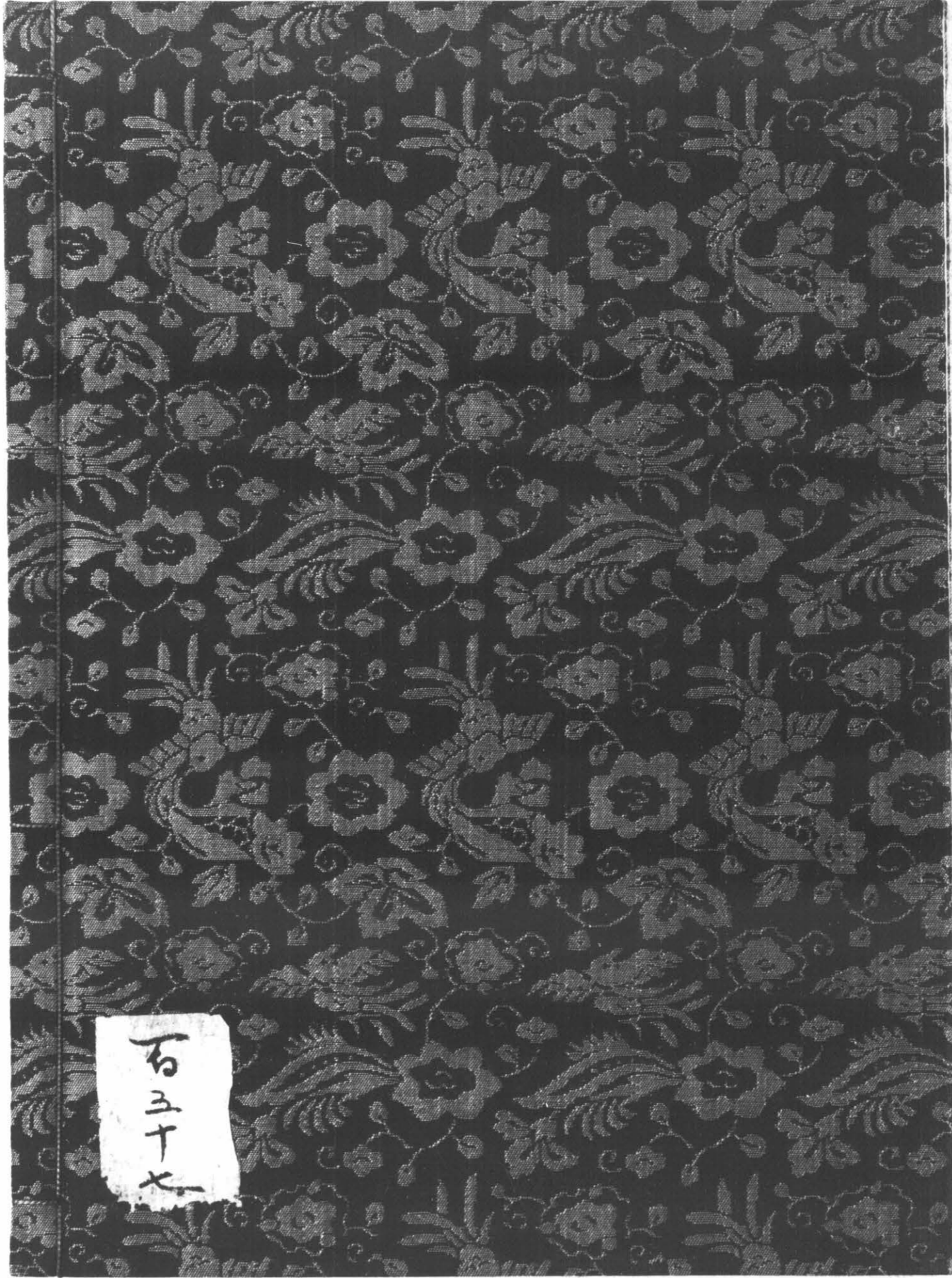
文政十三^{庚寅}六月吉

上羽又兵衛



上

九州大學圖書印



百三十七